

団体名	鵜沼南町自主防災組織		
助成金種類 事業名	まちづくり助成<1年目> 大規模災害時における避難行動要支援者に対する避難支援訓練事業		
事業概要	災害時に地域で初動対応できる体制の構築と日頃からの災害弱者に対する支援を継続する。本応募事業では大規模災害時の一時避難に際して避難行動要支援者を実際に搬送できる力量を身に着ける事を目指す。		
事業費総額(確定)	156,863 円	助成金額(確定)	104,000 円
主な経費内容	折りたたみ式アルミリヤカー、簡易担架、ソフト担架、ヘルメット 27 個		

●実施内容

■避難行動要支援者搬送訓練

日時:11月4日(土)10:00~12:00

場所:鵜沼南町会館

参加者:20人

消防署の指導の下、簡易担架やリヤカーを用いて人を搬送する訓練を行った。

- ・簡易担架、ソフト担架を用いて被搬送者を屋外にセットしたリヤカーに乗せた。
- ・室内に寝ている人を想定し、担架を身体の下に潜り込ませる方法の習得。
- ・毛布を使った搬送方法を消防署職員から指導を受けた。

<得られた経験>

・今回購入したリヤカーは荷台の長さが1.2mなので、背の高い人を寝たまま乗せると足がはみ出すので、長さが1.8m程度の板を購入して荷台に置く必要があることが判明した。

・外階段を想定した訓練では傾斜が急であるため、2人では辛く4人で運ぶ必要がある事が判明した。担架を保持できるような器具を来年度購入する予定である。

5月6日(土)	定例会議 搬送訓練の実施時期検討
7月2日(日)	定例会議 搬送訓練の内容検討
9月2日(土)	定例会議 搬送訓練の詳細詰め
11月4日(土)	搬送訓練実施 終了後定例会議

●事業の成果

・避難行動要支援者の中で、特に自力で歩行できない人を搬送する必要があるという発想で始めた事業であったが、「やってみて初めて分かる経験」が沢山あり有意義な取り組みが出来た。訓練を体験していない人達が、いざ災害となった時に、いきなり周りの被災者を助けようとしてもほとんど手出しができない事が実感できた。

・高齢者が大半の自主防災組織の委員だけでは「搬送する必要のある人」を持ち上げて運ぶ事には無理があった。ただし「こうすれば搬送できる」という経験が出来たので、災害が起きた時には、現場に駆けつけてくれた人たちに、依頼する事は可能である。

・何年か訓練を積み重ねて経験を積み、体力のある人に依頼して搬送する方法を指示する事は出来るようになると実感できた。

・自主防災組織の外に災害時の対応を意識してくれる人たちとのつながりを構築しておけば、実際に災害が起きた時に効率的に災害弱者への支援が出来ると考えられる。今後、年々搬送訓練や炊き出し訓練を継続していく中でそのようなシステム構築を考えていきたい。

●団体の活動目的・目標

鵜沼南町に限らず、多くの地域の自治会では形式的に自主防災組織を備えているが、実態は1年交代の自治会長や班長によって構成されており、蓄積された経験に基づいた防災活動が出来るものとはなっていない。

そこで、1年交代ではなく継続して活動できる組織を設立した。災害時に慌てず実際に活動できる組織を目指すとともに、日常的に防災意識の向上を図る。

